

## 自動運転に対応した道路空間のあり方 中間とりまとめ たたき台（案）

### 1. はじめに

- 自動運転に対応した道路空間を検討するにあたっては、自動運転車両に対してインフラがどう対応するかでなく、自動運転社会において道路、まちや道路交通等のあり方をどうすべきか検討すべき。
- その上で、自動運転社会における中長期的な観点からの道路空間の全体像を踏まえた上で、短期的な対応をどうすべきか検討することが重要である。
- しかしながら、自動運転の社会実装に係る政府目標の達成が喫緊の課題であることから、中間とりまとめでは政府目標達成を着実に実施するためにインフラが対応すべき事項を中心にとりまとめる。

### 2. とりまく状況

- 少子高齢化に伴う中山間地域の高い高齢化率やトラックドライバー不足に伴う物流の効率化に対する社会的ニーズ。
- Society 5.0 の実現やCASE の進展。
- 官民ITS構想・ロードマップ2019等における自動運転に係る政府目標。
- 「道の駅等を拠点とした自動運転サービス 中間とりまとめ」(H31.1) や「新しい物流システムに対応した高速道路インフラの活用の方向性 中間とりまとめ」(R元.8) における道路空間等への提言。

### 3. 政府目標のためにインフラとして早急に対応すべき事項

- 高速道路（東京～大阪間）での2022年度以降の後続車無人隊列走行システムの商業化
  - ・商業化普及時における独立した専用レーン化
  - ・GPS測位精度低下対策等のためのインフラからの支援
  - ・物流拠点の整備（民間事業との役割分担、連携方策も含め検討）

など
- 限定地域における2020年までの無人自動運転移動サービスを実現
  - ・自動運転車のための専用の空間
  - ・自動走行や駐停車時の自己位置補正のための施設
  - ・自動運転車が走行する空間の標示
  - ・自動走行における安全施設

など
- 高速道路における2020年までのレベル3走行並びに2025年までのレベル4走行
  - ・高精度3次元地図の整備の支援

- ・安全で円滑な分合流のために必要な情報を収集提供する施設の整備 など

#### ○その他

- ・自動運転に対応した道路空間を構築にするにあたっての目標
- ・整備した道路空間が確実に機能するかどうかを確認する仕組み
- ・自動運転サービスを導入する地方自治体や公共交通事業者等に対する支援制度
- ・実証実験において得られたノウハウをまとめて広く共有
- ・ノウハウや課題、ベストプラクティス等を共有する地域毎の情報交換の場
- ・自動運転に対応したインフラ技術について官民で研究開発を行うための仕組み など

### 4. 中長期的観点からみた自動運転に対応した道路空間のあり方

○基本的な考え方を踏まえた未来像を示すとともに、次の論点を検討すべき

- ・道路のあり方（道路階層、道路構造、荷捌き等空間、歩車共存、サービス水準等）
- ・拠点やネットワークのあり方
- ・まちや交通のあり方
- ・インフラからの支援のあり方（データやその活用、通信含む）
- ・ODD（走行環境条件）マネジメントのあり方
- ・受益者の観点も踏まえた整備や管理のあり方
- ・インフラから車両へのメッセージ

○検討にあたっては、都市・地方等地理的違い、時間軸、自動運転車の普及予測、道路種別、自動運転車両、自動運転サービス等を踏まえ検討

### 5. まとめと今後の進め方

○喫緊に対応すべき事項のフォローアップと中長期的な視点からの自動運転に対応した道路空間のあり方を議論